

2026 年 7 月 24 日

台湾・6 月輸出受注は半導体をけん引役に過去最高更新 (Asia Weekly)

～外需の堅調さを反映して生産も拡大の動きが続いている～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(TEL : 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/20(月)	(ニュージーランド)6 月輸出(億 NZドル)	80.9	--	86.5
	6 月輸入(億 NZドル)	80.7	--	80.8
	(マレーシア)6 月輸出(前年比)	+45.4%	+52.9%	+44.7%
	6 月輸入(前年比)	+43.9%	+24.4%	+14.4%
7/21(火)	(ニュージーランド)4-6 月消費者物価(前年比)	+4.1%	+4.0%	+3.1%
	(台湾)6 月輸出受注(前年比)	+59.4%	+49.5%	+47.2%
7/22(水)	(インドネシア)金融政策委員会(政策金利)	5.75%	6.00%	5.75%
	(台湾)6 月失業率(季調済)	3.33%	--	3.32%
7/23(木)	(韓国)4-6 月実質 GDP(前年比・速報値)	+3.7%	+3.5%	+3.8%
	(オーストラリア)6 月失業率(季調済)	4.4%	4.4%	4.4%
	(シンガポール)6 月消費者物価(前年比)	+1.9%	+2.0%	+1.8%
	(台湾)6 月鉱工業生産(前年比)	+22.95%	--	+11.85%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～半導体のみならず幅広い分野で輸出受注が拡大し、月次ベースで受注額は過去最高を更新～

21 日に発表された 6 月の輸出受注額は前年同月比+59.4%となり、前月(同+47.2%)から伸びが加速した。前月比も+8.06%と前月(同+0.78%)から 2 ヶ月連続で拡大しており、単月ベースの輸出受注額は過去最高を更新した。財別では、主力輸出品である半導体など電子部品関連で引き続き旺盛な受注が続いているほか、IT 関連など電気機械関連や輸送用機械関連に加え、金属関連や化学製品関連など幅広い分野で受注が拡大している。国・地域別では、ASEAN などアジア新興国向けは拡大の動きに一服感が出ているものの、最大の輸出相手である中国本土向けが大幅に拡大したほか、日本向けも同様に大幅な伸びを示している。さらに、米国向けや EU 向けも底堅く推移している。

22 日に発表された 6 月の失業率(季調済)は 3.33%となり、前月(3.32%)から 0.01pt 悪化した。失業者数は前月比横ばいとなり、前月(同▲0.1 万人)まで 2 ヶ月連続で減少していた流れに一服感がみられる。内訳をみると、新卒者で減少する一方、既卒者で増加するなど対照的な動きと

なったほか、自発的失業者は増加した。一方、雇用者数も前月比横ばいとなり、前月（同+0.5万人）から増加の動きに一服感がみられる。分野別では、製造業でこれまでの減少基調から持ち直しの動きがみられたほか、建設業でも緩やかな増加が続いた。一方、サービス業では雇用拡大の動きに一服感が出ており、分野ごとにばらつきがみられる。

23日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+22.95%となり、前月（同+11.85%）から伸びが加速した。前月比も+2.68%と前月（同+1.60%）から伸びが加速し、5ヵ月連続で拡大しているほか、単月ベースの生産水準も過去最高を更新した。商品市況の上昇一服を受けて鉱業部門の生産は下振れした一方、製造業の生産は拡大基調を維持している。なかでも、主力輸出財である半導体の生産は旺盛な動きが続いているほか、コンピュータ関連や電気製品関連、輸送用機械も堅調に推移している。さらに、石油化学関連をはじめとする素材・部材関連の生産も活発な動きをみせている。このほか、縫製品関連や食料品関連の生産も底堅く推移しており、堅調な外需が生産活動を押し上げている。

図1 TW 輸出受注の推移

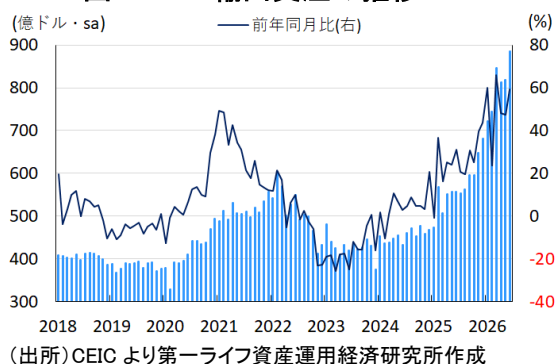


図2 TW 雇用環境の推移

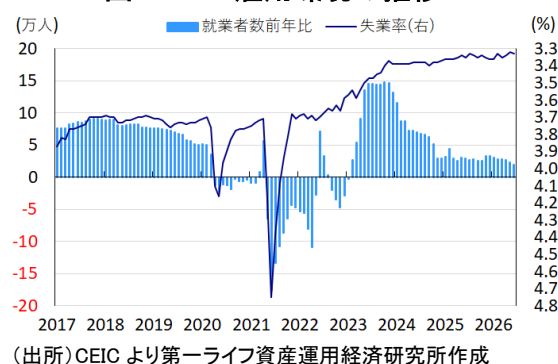
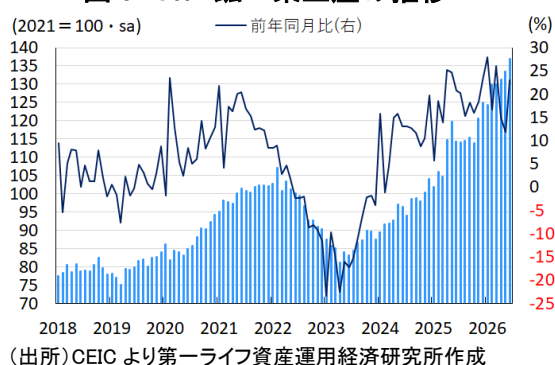


図3 TW 鉱工業生産の推移

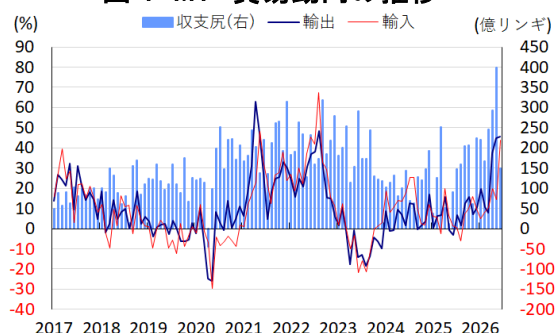


[マレーシア]～半導体など製造業や原油・天然ガスなど鉱業を中心に、輸出は引き続き堅調に推移～

20日に発表された6月の輸出額は前年同月比+45.4%となり、前月（同+44.7%）から伸びが加速した。前月比は▲8.8%と前月（同+0.8%）から3ヵ月ぶりの減少に転じており、持ち直しの勢いには一服感がみられる。分野別では、世界的なAI（人工知能）・半導体関連投資の旺盛さを背景に、主力輸出品である半導体など電子部品の輸出は引き続き堅調に推移したほか、電気機械など製造業部門の輸出も底堅い動きをみせた。さらに、商品市況の高止まりを背景に、原油や天然ガスな

ど鉱業部門の輸出も堅調に推移している。一方で、パーム油をはじめとする農産品関連の輸出は下振れした。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けが堅調に推移したほか、ASEAN諸国など周辺国向け輸出も底堅い動きをみせる一方、米国向けやEU向けでは輸出拡大の動きに一服感が出た。一方、輸入額は前年同月比+43.9%となり、前月（同+14.4%）から伸びが加速した。前月比も+17.3%と前月（同▲11.7%）から2ヵ月ぶりの増加に転じており、単月ベースの輸入額は過去最高を更新した。輸出の堅調さを反映して、資本財や中間財を中心に輸入が押し上げられる一方、消費財の輸入にも持ち直しの動きがみられる。その結果、貿易収支は+148.85億リングとなり、前月（+398.73億リング）から黒字幅は縮小した。

図4 MY 貿易動向の推移

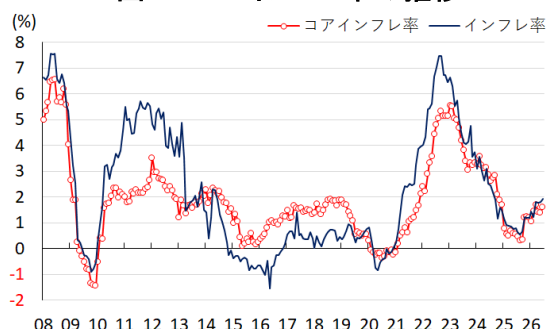


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～生活必需品の物価上昇は一服も、サービス物価を中心に価格転嫁の動きが広がる～

23日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+1.9%となり、前月（同+1.8%）からわずかに伸びが加速した。ただし、前月比は+0.04%と前月（同+0.75%）から上昇ペースが鈍化しており、イラン情勢の悪化を受けた原油高の動きが一巡したことを反映してエネルギー価格が下落に転じるとともに、生鮮品を中心とする食料品価格の上昇にも一服感がみられるなど、生活必需品の物価上昇圧力が後退したことが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.6%となり、前月（同+1.4%）から伸びが加速した。前月比も+0.11%と前月（同▲0.01%）から2ヵ月ぶりの上昇に転じており、エネルギー価格の上昇一服を受けた輸送コストの低下を反映して幅広い財価格に下押し圧力がかかる一方、サービス物価は幅広く上昇する動きが確認されており、人件費や原材料価格の上昇を価格に転嫁する動きが広がっている様子がうかがえる。

図5 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以 上